

P-027

小・中学生は「子育て」についてどのように理解しているのか 第2報
～医教連携による「子育て」を学ぶ教育プログラム開発～吉川はる奈¹⁾、是松 聖悟²⁾、寺蘭さおり¹⁾、
細川江利子¹⁾、安藤 聡彦¹⁾、西尾 尚美¹⁾、
関 由起子¹⁾、斎藤 千景¹⁾¹⁾埼玉大学 教育学部、²⁾埼玉医科大学 総合医療センター

【問題と目的】現代の子どもたちにとって、「子育て」は未知のものとされる。我々は小・中学生が生涯発達の視点から「育てること」「大人になること」について学ぶ授業を通した教育プログラム開発をめざしている。第71回大会では小学6年生を対象にした質問紙調査結果や取り組みについて報告した。授業は、小児科医により子育て中の乳児の姿を中心に日常の子育ての具体例を提示し、個人、グループで課題を見つけ、対応方法について考えるもので、最終的には個々人で授業を振り返り、課題を整理していく過程としている。結果として、小学6年生なりに課題をとらえようとする回答がえられた。本報告では中学1年生を対象とした授業後に実施した質問紙結果をもとに中学1年生の回答、特徴について報告する。また小学6年生の回答との比較や授業を受けた者と受けていない中学1年生の違い等について整理し、中学1年生が「育てること」についてどのように理解しているかを考察する。小児科医による「親になること」についての授業に対する児童の反応(自由記述)については、是松らによる「医教連携による小中学生に対する親となるための「教育プログラム開発」第2報を参照。「育てられる」対象である中学1年生が「育てること」を理解する過程について、質問紙調査の結果をふまえながら、考察する。【方法】中学1年生2クラス70名を対象に質問紙調査を実施した。質問内容は、乳幼児に対する感情、乳幼児への興味、自分に対する意識、子育ての参加意識、子ども理解など28項目について「とてもあてはまる」「あてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4件法で回答を求めた。また、授業に対する自由記述欄を設けた。【結果と考察】小学6年生の回答と比較すると中学1年生の回答は、課題に対して自分自身が行う具体的な対応について記載していた。また「自分が大人になった時のことを想像することは貴重である」と記述するなど、「育てる」ことの学習を今後の自分の生活に活かす必要性にふれる回答も見られた。実際に診療の場で子どもの治療にあたる小児科医からの講義は、中学生に臨場感が伝わり、真剣に受け止めていた。小学6年生から中学生という発達期に「育てる」ことを学ぶ方法、有効性について引き続きすすめいきたい。

P-028

「敏感肌」の子どもの育児と肌ケアに関する母親の意識調査

赤城 智美¹⁾、岡村 直子¹⁾、相良 早苗²⁾、
伊藤奈都美²⁾、福田 優子²⁾¹⁾認定NPO法人アトピッツ地球の子ネットワーク、²⁾花王株式会社 サニタリー研究所

【目的】我が子が敏感肌であると認識している母親の悩みと意識の理解を深めることは、情報の提供やサポートをするうえで重要である。本調査では、「敏感肌」「やや敏感肌」の子どもを育てる母親の育児情報源、使用している製品へのこだわりに焦点を当て、母親の意識や求める情報を明らかにすることである。【方法】0歳～3歳のアトピーやアレルギー疾患の子を持つ母親を多く含む母集団を対象に、2024年9～10月に無記名自記質問紙調査を実施した。調査内容は、属性、育児情報、子どもの肌に関する意識、子どもの肌に触れる製品へのこだわり、とした。対象者180名に、説明文書と自記式アンケート用紙を送付し、そのうち承諾・回答を得た91名について解析を行った(回収率51%)。【結果】母親の平均年齢は35歳、子どもの平均月齢は22ヶ月であった。子どもの肌質については、「敏感である」34名(37%)、「やや敏感である」43名(47%)、「敏感でない」8名(9%)、「わからない」2名(2%)、「未回答」4名(5%)であった。それぞれの回答とともに肌質の違いによる比較も行った。育児に関する情報源は、「ママ友」「インターネット」「SNS」が50%以上で多く、「小児科の医師」も44%と多かった。育児に関する情報の満足度は、「満足している」45%、「どちらでもない」41%、「満足していない」9%で、「どちらでもない・満足していない」の理由の上位は、「情報が多くて、正しい情報が分からない」「知りたい情報を見つけるのが大変」であった。肌に関する悩みを相談する相手は、「医師」が最も多かった。子どもの肌に対して影響を与えるか気になるものとして、「親の体質の影響」「改善する時期」「アレルゲン」「食べ物」は50%以上であった。子どもの肌に触れる製品(衣類、下着、おむつ、布団やタオル、お風呂用品、衣類用洗剤・柔軟剤、洗顔料)のうち、特にお風呂用品とおむつは「こだわって選んでいる」が50%以上であり、さらに敏感である人ほどその割合が多かった。また、おむつの選択理由は「かぶれにくい」が最も多かった。【考察】肌が敏感な子を持つ母親ほど、育児情報に関する満足度は低く、使用する製品へのこだわりが強いのが特徴であった。育児情報が多い中で、本当に知りたいことについて、正確な情報を、医師や信頼できる専門家から発信してもらうことが重要である。